

## 授業科目

## 高次脳機能障害学

担当教員名 能登 真一	対象学年	3	対象学科	理学
	開講時期	後期	必修・選択	選択
	単位数	1	時間数	15

## ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○	◎	◎	○

## 授業の概要

脳損傷によっておこるさまざまな高次脳機能障害について、基礎知識を整理した上で、個々の症状の臨床像、メカニズム、評価方法、アプローチ方法などを学習する。

## 授業の目的

認知症を含めた中枢性疾患を担当する理学療法士が備えておくべき知識を整理し、評価や治療をスムーズに実施できるようにすること。

## 学習目標

1. 高次脳機能障害を学ぶための脳解剖知識が整理できる。
2. 高次脳機能障害の個々の症状を列記し、それらが生じるメカニズムを理解できる。
3. それぞれの高次脳機能障害に対応する評価方法を述べ、一部を実施できる。
4. 個々の高次脳機能障害に対するアプローチの基本姿勢を説明することができる。
5. 個々の高次脳機能障害に対するアプローチ方法について、議論できる。
6. 高次脳機能障害に関心を持ち、治療者としての責任感を身に付けることができる。

## 授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	脳解剖の整理と高次脳機能障害の概説	講義	能登 真一
2	注意障害、記憶障害とその評価・アプローチ方法	講義	能登 真一
3	失語とその評価・アプローチ方法	講義、演習	能登 真一
4	失行とその評価・アプローチ方法	講義、演習	能登 真一
5	半側空間無視とその評価・アプローチ方法	講義、演習	能登 真一
6	Pusher症候群とその評価・アプローチ方法	講義、演習	能登 真一
7	前頭葉症状とその評価・アプローチ方法	講義、演習	能登 真一
8	まとめ	講義	能登 真一

## 使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	高次脳機能作業療法学	能登真一	医学書院	2012年	3,800円+税	
参考書	PT・OTのための高次脳機能障害ABC	網本 和	文光堂	2015年	5,940円+税	
その他の資料						

## 評価方法

期末試験（80%）+レポート（20%）

## 履修上の留意点

毎回、講義に演習を織り交げる予定である

## オフィスアワー・連絡先

月曜日 12:00~15:00  
火曜日 13:00~15:00  
noto@nuhw.ac.jp